

SALMON 情報

第15号

2021年3月

- “同位体”で探る、外洋域におけるサケの回遊経路
- サクラマスにおける個体群の遺伝的構造と個体群間の遺伝的交流
- サクラマスをめぐる漁業経済学・環境経済学からのアプローチの紹介
- 水産資源研究所さけます部門への組織改変にあたって
- さけの遡る川-1 三面川（新潟県）
ほか



編集 水産資源研究所さけます部門



国立研究開発法人
水産研究・教育機構

目次

研究成果情報

- “同位体”で探る、外洋域におけるサケの回遊経路…………… 松林 順 3
- サクラマスにおける個体群の遺伝的構造と個体群間の遺伝的交流…………… 北西 滋 6
- サクラマスをめぐる漁業経済学・環境経済学からの
アプローチの紹介…………… 大串伸吾・ほか 12

会議報告

- さけます関係研究開発推進会議…………… 福若雅章・ほか 22
- 第28回北太平洋溯河性魚類委員会（NPAFC）年次会議
科学調査統計小委員会（GSRs）の概要…………… 斎藤寿彦 25

トピックス

- 水産資源研究所さけます部門への組織改変にあたって…………… 黒川忠英 28

さけます情報

- さけの遡^{かえ}上の川-1 三面川（新潟県）…………… 阿部邦夫 29
- 北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖…………… 上田周典 31
- さけます人工孵化放流に関する古文書の紹介（7）
「石狩国石狩郡」のサケ漁獲数に関する古文書…………… 野川秀樹 33

mini column

カラフトマスが自然分布しているのは北太平洋で、その沿岸（日本、ロシア、カナダ、アメリカ）の河川に遡上します。ほぼすべての個体が2年で成熟するため、偶数年と奇数年で遺伝的な隔離があり、地域によっては2年周期の資源変動を示します。近年ではヨーロッパ北部に移植されたカラフトマスが定着し、在来生態系への影響も懸念されています。

国内の主な分布域は北海道オホーツク海側に面する地域ですが、本州の青森県や岩手県にも僅かな遡上が見られます。

国内のカラフトマスの漁獲量は、1990年から2010年ごろまでは高水準で、自然産卵群が高い資源水準に貢献したと考えられていますが、2012年以降は漁獲量が低迷しており、かつてのような大規模な自然産卵も見られなくなってきました。

